

テーマ 自分の住んでいるところをどのようにして守っていくか。協働のまちづくりはどのように関わっていくか。
 何をどのように守るのか、誰がどのように守るのか、お金をどのようにかけて守るか、

番号	第1回目の意見	要約
1	企業誘致などを考えて定住出来るまちづくり。	仕事と定住。
2	集落崩壊がすでに始まりつつある。	集落の維持機能の低下
3	道の駅のトイレ増設、休憩施設の設置をすれば、来客が増える。	観光客(往来者)の増加方法
4	医療の関係でこの地域は現在村上総合病院が中心となっているが、手狭になってきている。	健康と医療
5	一人暮らしではタクシー券がもらえなくなったため、タクシー代に大金がかかる。一生懸命自立して生きてい	一人暮らしの方への支援
6	トンネル内を走行中でも災害情報が聞けるようにし、安全なまちづくりを進めるべき。	防災情報
7	協働のまちづくりというのは、今、自分たちの地域で何をおこなっているのかを知ることが大事。	自治活動と協働のまちづくり
8	協働のまちづくりに参加できる回数もあるかと思う。毎週日曜日に何かあるため勤めている若い人たちはなかなか	自治活動と個人生活の関係
9	ボランティア活動に多少の報酬があれば、やりがいもますのではないか。	ボランティア活動に対する評価
10	村上市の中心部の人たちと我々みたいに山もあり田もあるような人たちではこの問題に対する関わり方が違って	地域独自の手法
11	頻繁にボランティア活動があり、その中で地域のコミュニケーションが図られる。	地域活動とコミュニケーション
12	防災についても日中家にいるのは高齢者で、いざ災害になった時に集落で体制を整えているところもあるが、住	地域防災
13	高齢化で出来なくなってきたことが多い。誰がやるのかという問題が発生してくる。	人手不足と生活維持活動
14	農村は人手がなければやっていけない。耕作放棄地が増えていく。せつかく圃場整備をやって作る人が	人手不足と農業
15	これから地区の農業をどうやって守っていくのかという方向付けをいっしょに考えていかなければならない。	後継者・人手不足と農業
16	農村は人手がなければやっていけない。耕作放棄地が増えていく。	人手不足と農業
17	嫁婿対策の話は昔から言われているが決定打はないでしょうか。	結婚支援

番号	第2回目の意見	要約
1	一生懸命取り組んでいる集落もあるがそうでない集落もある。その中でなるべく格差の出ない進め方、仕組みづ	集落間格差
2	ごみの問題が一番だと思う。神林地区ではごみ問題に一番重点を置いているという方向付けも協働のまち	ごみ対策
3	ボランティア活動をお金ではなくてポイント制として、自分が年を取ったときにしてもらいたいような制度にすれば	ボランティア活動に対する評価
4	集落でのふれあいが薄れてきている。運動会をやっていてそこで色々な人と顔を合わす。顔を合わせれば	地域活動とコミュニケーション
5	昔は集落運動会などコミュニケーションの場があったが最近はおこなわれていないようです。防災訓練など	地域活動とコミュニケーション
6	私のところでは防災訓練を毎年やっている。それから農村公園の草取りも集落総出でやっている。若い人か	地域活動とコミュニケーション
7	神林の基幹産業は農業であり農業が衰退していくとさみしい感じがします。そのためには後継者が必要で	後継者不足と農業
8	各集落に生産組織がありますが、その生産組織の構成員も高齢化していて将来的に心配です。	後継者不足と農業
9	集落でやってきたことも続けることが出来なくなって隣の集落といっしょにやっというふうなことがこれ	後継者不足と近隣集落
10	ふれあいトークの中でも活性化したい、全体的なレベルアップを図りたいという話があったが、一つの業種の	業種間・地域間のつながり